

環境報告書

Environmental Report

2014



株式会社 エスアールエル

Communication for Health

CONTENTS

編集方針	1	TOPICS 2013年度 EMS活動	10
企業理念	2	● ISO14001の更新審査	
● 企業理念		● ISO14001認証の新規サイト(川崎ラボラトリー)	
● 会社概要		● 照明・空調の改善	
● エスアールエルグループが受託する臨床検体検査		● エコドライブ活動コンクールで「優良賞」を受賞	
環境方針	3	コラム	12
● エスアールエルグループ環境保全推進宣言		● エスアールエルのちょこっとエコ	
● エスアールエル環境方針		● お隣企業エコだけの話	
社長メッセージ	4	ISO14001 認証事業所MAP	13
環境影響	5	編集後記	14
● エスアールエルの事業活動と環境への影響			
2013年度 環境への取り組み	6		
● 環境教育の実施			
● 環境情報の共有化			
● エネルギー使用量の削減			
● 全社CO ₂ 排出量			
● 今後のCO ₂ 排出量削減対策			
● 廃棄物の削減			
● 行政への報告			

編集方針

皆さまにエスアールエルの環境管理活動を知っていただくため2011年より「環境報告書」を発行しています。本報告書は、エスアールエルの環境影響や環境への取り組み、EMSの活動について、可能なかぎりデータを開示し「読みやすく」「わかりやすく」を心がけて作成しております。「環境報告書」は、以下の内容を中心にご報告させていただきます。

- エスアールエルの事業活動による環境影響
- エスアールエルの環境への取り組み
- エスアールエルのEMS活動

できるだけ多くの皆さまとコミュニケーションを図っていくため、ホームページでの公開と冊子の発行をしています。

「環境報告書2014」は、以下の内容に準拠し、作成しています。

準拠するガイドライン：本報告書は、「環境報告書ガイドライン(2007年版)」(環境省発行)に準拠しています。

報告対象期間：2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)

対象組織の範囲：検査ラボラトリーおよび営業拠点を含む全事業所の環境関連データを収集し、掲載しています。

企業理念

『健康で豊かな社会づくりに貢献する』

エスアールエルグループの求める5つの価値

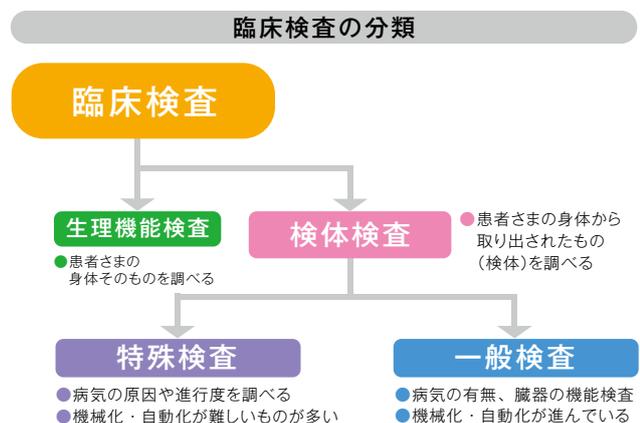
- [顧客本位]** 私たちは、常にお客さまの視点を重視したサービスを開発し、提供します。
- [品質主義]** 私たちは、あらゆる活動において、限りなく品質の向上を追求します。
- [情報重視]** 私たちは、さまざまな情報や情報システムを活用することで、新しい価値を生み出します。
- [標準志向]** 私たちは、健康を願うすべての人々に、標準となるような優れたサービスを開発し、提供します。
- [個の尊重]** 私たちは、お客さま、従業員、一人ひとりを尊重し、個々の可能性を信じて活動します。

会社概要

社名	株式会社エスアールエル
設立	1970年(昭和45年)6月16日
本社	〒163-0409 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 TEL:03-6279-0900(大代表)
代表者名	代表取締役社長 小川 眞史
資本金	11,027百万円(2014年3月31日現在)
事業内容	受託臨床検査事業、感染防止商品販売
事業所	八王子ラボラトリー等の主要ラボラトリーおよび営業拠点
従業員数	2,339名(2014年3月31日現在)

エスアールエルグループが受託する臨床検体検査

臨床検査とは、診療を目的に患者さまの身体をさまざまな方法で病気の有無等を調べる検査です。臨床検査には、生理機能検査と検体検査があり、エスアールエルグループは、検体検査全般のアウトソーシングを承っており、なかでも特殊検査に強みをもっております。



環境方針

エスアールエルグループ環境保全推進宣言

エスアールエルグループは、地域の環境保全はもとより、広く地球環境の保全が人類ならびに地球上の生物にとって重要な課題であることを認識します。

また、環境負荷の少ない持続可能な社会システムづくりが経営において重要な課題であることを認識して、環境に配慮した事業活動を推進します。事業に関わる省エネ・省資源・廃棄物削減の推進を通して、より良い地球環境の実現に向けた活動に取り組んでいきます。

エスアールエル環境方針

エスアールエルの環境活動の指針である環境方針は、2011年にISO14001の全社認証取得を機に、内容を明快・簡潔なものに刷新いたしました。

エスアールエルは、あらたな環境方針のもと、省エネ・省資源活動の目標に向け挑戦しております。

環境配慮

私たちは、環境に配慮した事業活動を目指し、人と環境に優しい検査サービスや製品を社会に提供いたします。

省エネ・省資源

私たちは、あらゆる活動において、省エネ、省資源行動をおこない、限りある資源を有効に活用します。

汚染の予防

私たちは、化学物質の適正管理、廃棄物の適正分別・リサイクルを推進し、汚染の予防に努めます。

法規制遵守

私たちは、適用を受ける環境に関する法規制・条例・地域協定など、要求事項を明確にし、遵守します。

EMSの改善・向上

私たちは、環境活動の目的・目標を定め、定期的に見直し、環境活動の継続的な改善を図ります。

社長メッセージ

企業のあるべき姿として、
環境保全活動に積極的に取り組むことで
社会的責任を果たしてまいります。

創業以来、私たちは「健康で豊かな社会づくりに貢献する」という企業理念のもと、
受託臨床検査事業を中心に活動を進めてまいりました。

昨今の地球環境問題は、地球温暖化をはじめ異常気象や天然資源の枯渇などが深刻化
しており、企業にはより一層の環境に配慮した事業活動が望まれております。

エスアールエルは、2000年に臨床検査センターでは初のISO14001の認証を取得し、
2010年には認証範囲を全社に拡大いたしました。

また、2012年度末より、社有車においてはエコドライブの実践と低燃費・低排出ガス
車両の導入を推進し、燃費向上に効果を上げております。

全社的な環境マネジメントを通して、社員の環境意識も向上し、企業文化のひとつと
して環境活動が根付いてきたことを日々実感しております。

これからも私たちは、環境に配慮した企業活動に励み、持続可能な社会の発展に貢献
してまいります。

本報告書が、私たちの取り組みをご理解いただけるための一助となりましたら幸甚です。

代表取締役社長

小川 真史



環境影響

エスアールエルの 事業活動と環境への影響

エスアールエルの事業活動を通じ、全事業所の環境影響を把握し、環境保全に配慮した活動を展開しています。インプット、アウトプットの環境影響に対し、省エネルギー活動、廃棄物の削減、紙のリサイクルを推進することで、環境負荷の低減を目指してまいります。

●エスアールエル全社 2013 年度 環境影響データ

IN PUT

各種エネルギー・消耗品

電気使用量	34,068 千 kWh	重油使用量	19kL
都市ガス使用量	1,178 千m ³	上水道使用量	184 千m ³
LPG（プロパンガス）使用量	1,206kg	試薬の使用	
ガソリン使用量	1,787kL	検体の使用	
灯油使用量	82kL	検査消耗品の使用	
軽油使用量	37kL	事務消耗品の使用	

事業活動の流れ

【検体の集荷】



お客様の医療施設から検体をお預かりします。

【検体の仕分】



各ラボラトリーにて検体を検査単位に仕分けします。

【検査】



各ラボラトリーにて検体を検査します。

【検査結果の報告】



検査結果をお届けします。

OUT PUT

CO₂ 排出量 (各種エネルギーからの排出)・廃棄物量

CO ₂ 排出量	25,541 t-CO ₂	一般廃棄物	366 t
排水量	173 千m ³	産業廃棄物	999 t
紙リサイクル	555 t	特別管理産業廃棄物	738 t

2013年度 環境への取り組み

環境教育の実施

全構成員には、「環境方針」をはじめ、EMS活動の取り組み意義、環境法規制など、環境の幅広い教育を毎年5月に新たな内容で実施しています。2013年度は、2012年度の外部・内部監査の指摘に対し、運用手順の是正内容（社内EMS文書の改訂）についても周知しました。

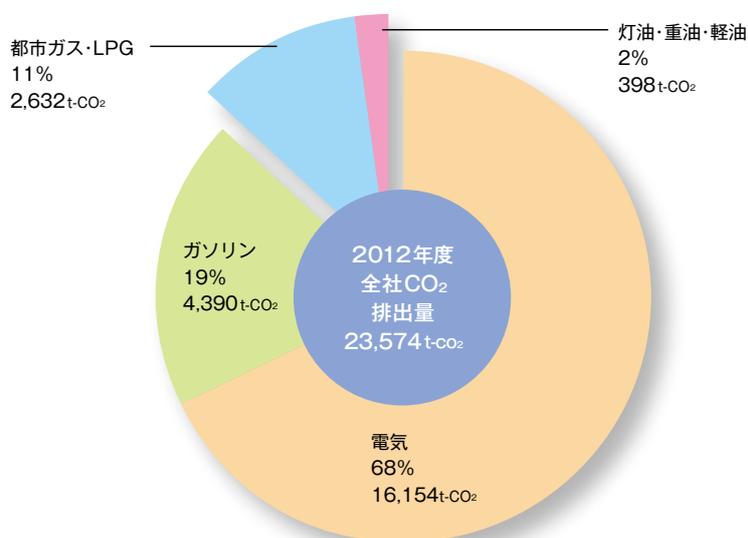
環境情報の共有化

全社への情報展開・共有化のため、社内ネット上に「環境掲示板」を開設しました。

エネルギー使用量の削減

2013年度のEMS活動の開始にあたり、2012年度的全社エネルギー使用量を、CO₂排出量に換算して使用状況を調査しました。内訳として、CO₂排出量の87%が電気・ガソリン使用（社有車）によるものであり、CO₂排出量の削減のため2013年度も引き続き、エネルギー使用量の削減を環境負荷軽減の課題として取り組みました。

- ① 電気使用量の削減【全社共通目標】（p7）
- ② 車両燃費の向上【営業共通目標】（p8）



2013年度 環境への取り組み

① 電気使用量の削減 【全社共通目標】

電気使用量の削減は、「電気使用量（原単位）前年比1%削減」を目標として取り組んできました。

2012年度の電気使用量は、原単位で対前年比4.7%の削減となり、目標を達成することができました。

2013年度は、運用対策（継続）と設備対策を実施しました。

その結果、2013年度の電気使用量は、原単位で対前年比0.1%の削減となったものの目標は未達成となりました。猛暑・豪雪によるエアコン稼働時間の延長による影響が大きいと考えられます。

<2013年度の対策>

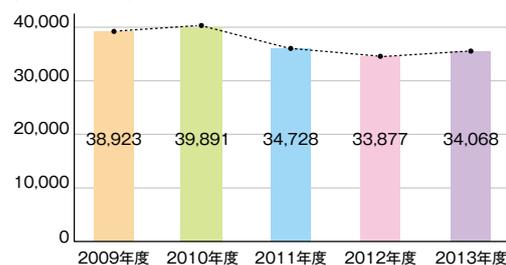
対策	アイテム	実施内容
運用対策	OA機器の節電	OA機器のモニター電源オフの実施【継続】
	空調の運用	空調設定温度の徹底【継続】 夏期：従来設定温度より2℃アップ、冬期：2℃マイナス
	照明の節電	照明の間引き、昼休み・無人スペースの消灯【継続】
	その他	クールビズの早期開始（5～10月）【継続】 ウォームビズの導入（11月～翌年3月）【継続】
設備対策	照明の改善	高効率化：八王子ラボラトリー、日野管理棟、北海道ラボラトリー、愛知ラボラトリー 非常・誘導灯のLED化、人感センサーの導入：八王子ラボラトリー、北海道ラボラトリー
	空調の改善	空調改善（セントラル⇒個別空調）：日野管理棟、福岡ラボラトリー

項目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
原単位	0,02805	0,02839	0,02453	0,02338	0,02336
対前年比	—	1.2%増	13.6%減	4.7%減	0.1%減
評価	—	未達成	達成	達成	未達成

原単位：電気使用量原油換算値／報告テスト数

<電気使用量の年間比較>

(単位：千 kWh)



(単位：千 kWh)

項目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
電気使用量	38,923	39,891	34,728	33,877	34,068

② 車両燃費の向上 【営業共通目標】

車両燃費の向上は、「車両燃費 前年比1%向上」を目標として取り組んできました。

2012年度の車両燃費の向上は、夏季のエアコン使用頻度増により対前年比0.7%低下となり、目標は未達成となりました。2013年度は、運用対策だけでなく、設備対策（エコカー入替え）を推進いたしました。その結果、2013年度の車両燃費の向上は、対前年比4%の向上となり、目標を達成することができました。運用対策だけでなく、低燃費車両への切替え（対象車93%）効果が大きいと考えられます。

<2013年度の対策>

(単位：km/L)

対策	アイテム	詳細	項目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
運用対策	エコドライブの啓蒙活動	エコドライブの再教育、車両日常点検の定常化	燃費	14.0	14.1	14.0	14.5
設備対策	低燃費車両への切替え	リースアップ時に、低燃費車両への優先切替え（対象320台の90%以上切替え予定）	対前年比	—	0.7%向上	0.7%低下	4%向上
			評価	—	未達成	未達成	達成

全社CO₂排出量

2013年度のCO₂排出量は、対前年比8%増加となりました。

CO₂排出量の増加は、電力会社のCO₂排出係数の変更によるものです。

2013年度は、改善活動（電気使用量の削減、車両燃費の向上）を実施し、エネルギー効率はいずれも向上しています。

(単位：t-CO₂)

項目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	対前年比
CO ₂ 排出量	23,863	21,005	23,574	25,541	8%増

※CO₂排出係数：CO₂の排出量を算出する際に用いる係数

<電力会社別 CO₂排出係数>

(単位：t-CO₂/kWh)

電力会社	北海道電力	東北電力	東京電力	中部電力	北陸電力	関西電力	中国電力	四国電力	九州電力	沖縄電力
2013年度	0.000688	0.000600	0.000525	0.000516	0.000663	0.000514	0.000738	0.000700	0.000612	0.000903
2012年度	0.000485	0.000547	0.000464	0.000518	0.000641	0.000450	0.000657	0.000552	0.000525	0.000932
2011年度	0.000353	0.000429	0.000375	0.000473	0.000423	0.000311	0.000728	0.000326	0.000385	0.000935

今後のCO₂排出量削減対策

CO₂排出量削減の設備対策は、設備の改修時にエネルギー効率の良い設備の導入、照明の高効率化等省エネルギー技術の導入に努めてまいります。

<今後実施予定 CO₂排出量の削減施策>

アイテム	内容	事業所
照明改善	高効率化	八王子ラボラトリー、福岡ラボラトリー
	非常・誘導灯のLED化	静岡ラボラトリー、金沢ラボラトリー
	人感センサーの導入	練馬ラボラトリー
その他	冷却水ポンプの流量調整	八王子ラボラトリー
	検査室にある冷蔵室の集約	

2013年度 環境への取り組み

廃棄物の削減

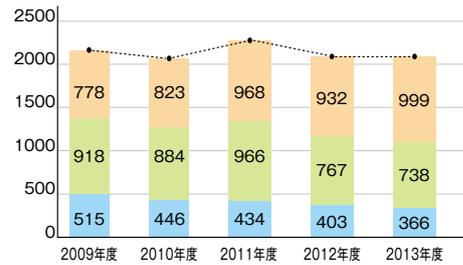
廃棄物の削減は、「総排出量が2012年度を超えない」という維持管理をしています。2013年度の廃棄物の総排出量は、ほぼ2012年度と同様の結果となりました。受託検体数が増加しましたが、2011年度末より八王子ラボラトリーで「感染性廃棄物リサイクル処理システム」が稼動したことにより、特別管理産業廃棄物(感染性廃棄物)の排出量を抑えることができました。

(単位：t)

項目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
廃棄物量	2,153	2,368	2,102	2,103

〈廃棄物量の内訳〉

(単位：t) ■ 産業廃棄物 ■ 特別管理産業廃棄物 ■ 一般廃棄物



行政への報告

(1)省エネルギー法

①エネルギー使用状況(原単位報告)

項目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
原単位	0.03311	0.03340	0.02885	0.02741	0.02734
対前年比	—	0.9%増	13.6%減	5.0%減	0.3%減

原単位：原油換算値 / 報告テスト数
対象：全事業所
努力義務：原単位前年比1%以上削減

②温室効果ガス排出量の状況

(単位：t-CO₂)

項目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
CO ₂ 排出量	20,058	19,090	16,323	19,079	21,297
対前年比	—	4.8%減	14.5%減	16.9%増	11.6%増

エネルギー使用量は削減されましたが、CO₂排出量は、CO₂排出係数の見直しにより増加となりました。



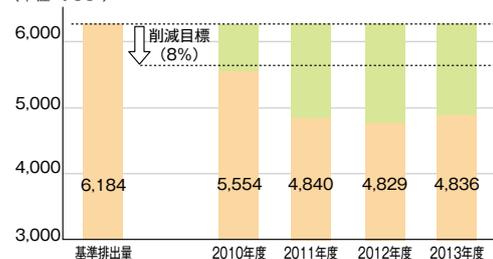
(2)東京都地球温暖化対策

(単位：t-CO₂)

項目	基準排出量	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
CO ₂ 排出量	6,184	5,554	4,840	4,829	4,836
対基準排出量比	—	10.2%減	21.7%減	21.9%減	21.8%減

対象施設：八王子ラボラトリーの一部(第1・第2ラボ)、日野管理棟
基準排出量：2005～2007年のCO₂排出量平均値
削減義務：CO₂基準排出量比8%以上の削減
(2010～2014年の5年間平均値)

(単位：t-CO₂)



※対前年比は、小数点以下の処理の為、必ずしも一致しない場合があります。

ISO14001の更新審査

ISO14001の認証を全社で取得してから3年がたち、初めて「更新審査」が実施されました。外部認証機関による審査は、毎年の「定期審査」と4年に1回の「更新審査」があります。「更新審査」は、審査サイト数が多く、審査時間も長くなります。今回は、審査サイトは26サイト、審査時間は延べ400時間で実施されました。審査結果は良好でしたが、審査機関からの指摘内容もいくつかあり、今後のEMS活動に生かせるよう努めてまいります。



ISO14001認証の 新規サイト(川崎ラボラトリー)

川崎ラボラトリーは、2013年7月に「川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)」4階に開設され、ISO14001の認証を2014年3月に取得いたしました。川崎ラボラトリーの機能は、一般検査・緊急検査を実施する「迅速ラボ」としての役割を担っています。また、血液中のアミノ酸濃度の変化から「癌のリスク評価」をする特殊検査も実施しています。「川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)」は、環境面に配慮された施設で、共有部分の照明は人感センサーが付き、検査室内の照明はブロック別のスイッチ、エアコンは個別エアコン(温度調整可能)となっています。エスアールエルでも、独自に、高性能の「オゾン滅菌機能付き排水処理装置」を設置いたしました。環境の情報交換の場として、センター内で定期的な「連絡会」が開催され、社内でも「EMS連絡会」を開催しています。今後とも、環境にも配慮し、業務を推進していきます。

- * 川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)
「キングスカイフロント」内にある高度な先端技術を有する研究機関・企業等の連携による研究の推進に向けた複合施設です。
- * キングスカイフロント
川崎市がライフサイエンス・環境分野を中心に、世界最高水準の研究開発から新産業を創出するために、国際戦略拠点として設けられたエリアです。



照明・空調の改善

●八王子ラボエリアの照明・空調の改善

八王子ラボエリアにある日野管理棟は、「東京都地球温暖化対策」の計画に基づきCO₂削減の設備対策（照明、空調の改善）を実施いたしました。

特に、空調は、集中型空調（重油使用）から個別空調（電気使用）に改善したことにより、CO₂削減と省エネルギーに貢献しました。

照明と空調を改善したことで、省エネ型の建物となり、同時に職場環境の改善につながりました。



- | | |
|---------|--|
| <照明の改善> | 省エネタイプの照明器具に変更（安定器付）
[効果] 電気使用量 50%削減（見込み） |
| <空調の改善> | 空調システムの変更（集中型*⇒個別）
*集中型…重油・電力を多大に消費する機器
[効果] 電気使用量 10%削減（見込み）
各部屋別でのON・OFF温度調整も可能 |

●北海道ラボの照明の改善

北海道ラボは、築26年が経過し、照明器具の老朽化に伴い不具合も発生しておりました。この度、照明を省エネ型に更新いたしました。

共用部・検査室・事務室は、高効率の蛍光灯（既存より消費電力半減）とし、非常灯・誘導灯は、LED照明としました。

今回の照明改善により、電気使用量を 50%削減（見込み）です。



エコドライブ活動コンクールで「優良賞」を受賞

2013年度 環境への取り組み目標の「車両燃費の向上」は、事故削減対策も含め、公益財団法人主催の2014年度エコドライブ活動コンクールで評価され、「優良賞」を受賞いたしました。



コラム

エスアールエルのちょこっとエコ

エスアールエルのエコを紹介する「ちょこっとエコ」、今回は「検体搬送ボックス」です。

「検体搬送ボックス」は、丈夫な「通い箱」で、お客さまからお預かりした大切な検体を、全国各地より主要なラボラトリーに届けるために使用しています。外側は、防水・防汚の繊維でつくられた高品質なカバーを使用し、本体は、冷蔵庫の省エネ素材としても使用されている高性能な真空断熱材を使用しています。搬送時には、リユース可能な蓄冷剤や蓄温剤を入れ、ボックス内の温度を適正に保つことが可能です。繰り返し使用後の廃棄の際は、八王子ラボの感染性廃棄物のリサイクル処理により、固形燃料(RPF)としてリサイクルされます。

リデュース・リユース・リサイクルと、ここにもエスアールエルのエコがありますね。



* リデュース (ごみの発生量を減らす、長く使える物でごみの発生を減らすこと)

* リユース (そのままの形で再利用すること)

* リサイクル (こわして再資源として利用すること)

お隣企業のエコだけの話

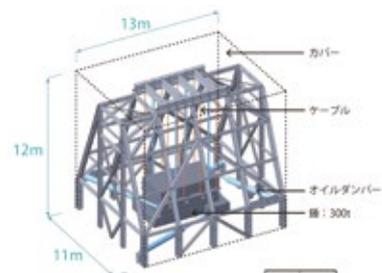
新宿三井ビルの災害対策

このコラムでは、エスアールエルと関連のある企業のトピックスを紹介していきます。今回は、エスアールエル本社が入居する新宿三井ビルディングです。新宿三井ビルは、築40年を期にBCP(事業継続計画)の一環としてビルの改良工事を実施しています。工事により最新の超高層ビルと同じ安全性が確保され、そこに働く人々にとって大きな安心となるでしょう。

(平成27年4月完了予定)

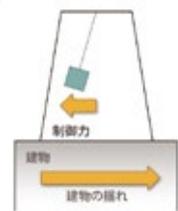
【工事の内容】

- 日本初の超大型制震装置 TMD (約 1,800t) を屋上に設置。装置は、振り子式の 1 基 300t の錘 (おもり) を 6 基設置し、地震発生時には、建物の揺れ方向と逆に装置が揺れ、超高層ビルに被害をもたらす長周期地震動の揺れを抑制します
- 低層階コア部に高性能オイルダンパー×48 台を設置
- エレベーターの耐震改修、「自動診断復旧システム」を導入
- 非常用発電機 (3 台) およびオイルタンク増設 (テナント専用部の稼働時間 72 時間に延長)



TMD 構造▲

TMD 原理▶



資料提供：三井不動産株式会社、鹿島建設株式会社

ISO 14001 認証事業所 MAP

- 本社
 - ラボラトリー&営業拠点
 - ラボラトリー
 - 営業拠点
- (2014年11月30日現在)

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	福岡ラボラトリー
	2	筑後ラボラトリー
	3	福岡西ラボラトリー
	4	北九州ラボラトリー
	5	長崎ラボラトリー
	6	佐世保ラボラトリー
	7	熊本ラボラトリー
	8	大分ラボラトリー
	9	中津ラボラトリー
	10	宮崎ラボラトリー
	11	延岡ラボラトリー
	12	出水ラボラトリー
営業拠点	1	福岡
	3	福岡西
	4	北九州
	5	長崎
	6	佐世保
	7	熊本
	8	大分
	9	中津
	10	宮崎
	11	延岡
	12	出水
	13	久留米
	14	佐賀
	15	天草
	16	鹿児島
17	沖縄	

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	北海道ラボラトリー
	2	札幌ステーションラボラトリー
営業拠点	1	札幌
	3	旭川
	4	釧路
	5	函館
	6	青森
	7	盛岡
	8	秋田
	9	仙台
	10	山形
	11	福島

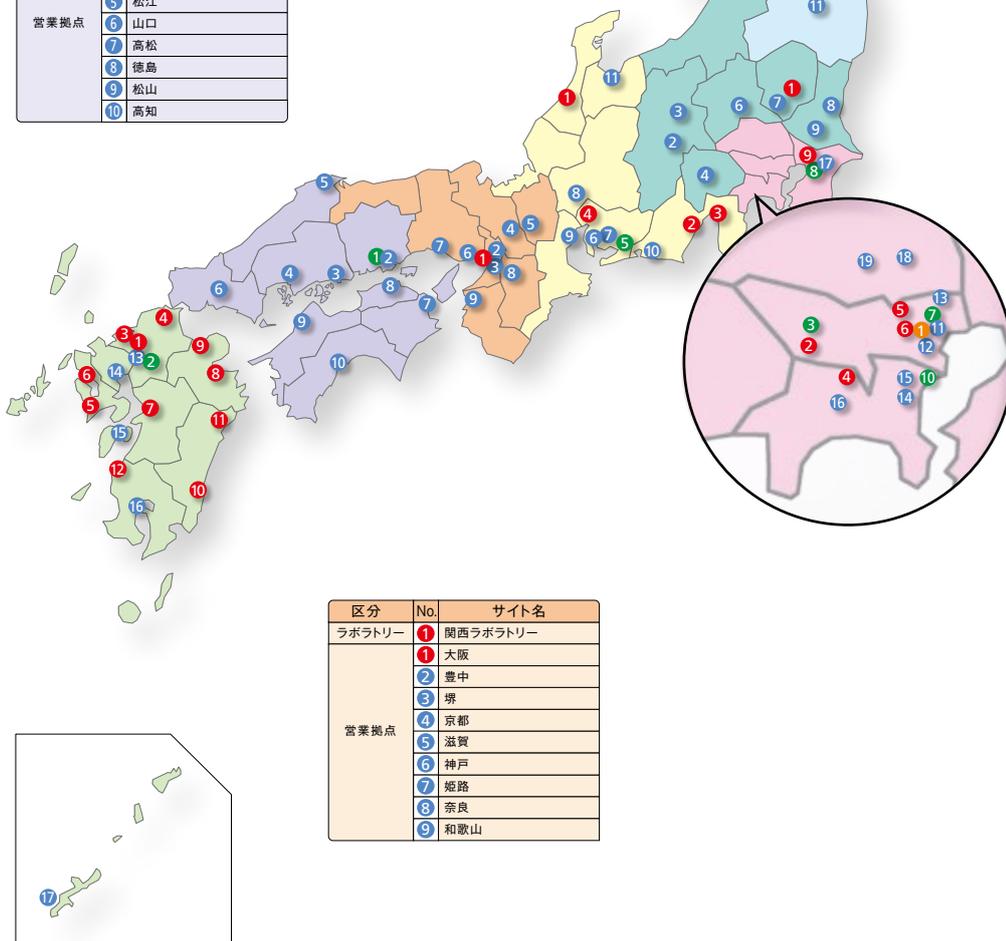
区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	金沢ラボラトリー
	2	静岡ラボラトリー
	3	沼津ラボラトリー
	4	愛知ラボラトリー
	5	豊川ラボラトリー
営業拠点	1	金沢
	2	静岡
	3	沼津
	4	小牧
	6	名古屋
	7	岡崎
	8	岐阜
	9	津
	10	浜松
	11	高山

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	岡山ラボラトリー
営業拠点	2	岡山
	3	福山
	4	広島
	5	松江
	6	山口
	7	高松
	8	徳島
	9	松山
	10	高知

区分	No.	サイト名
新宿本社	1	新宿本社
ラボラトリー	2	第1・第2八王子ラボラトリー 第3八王子ラボラトリー 遺伝子・染色体解析センター MUQSラボラトリー 日野管理棟 情報物流棟
	3	羽村ラボラトリー
	4	相模原ラボラトリー
	5	練馬ラボラトリー
	6	新宿ラボラトリー
	7	四ツ谷ラボラトリー
	8	千葉中央ラボラトリー
	9	千葉ラボラトリー
	10	川崎ラボラトリー
	営業拠点	2
4		相模原
5		練馬
6		新宿
9		白井
11		中央
12		品川
13		足立
14		横浜
15		川崎
16	厚木	
17	千葉	
18	さいたま	
19	川越	

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	関西ラボラトリー
営業拠点	1	大阪
	2	豊中
	3	堺
	4	京都
	5	滋賀
	6	神戸
	7	姫路
	8	奈良
	9	和歌山

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	宇都宮ラボラトリー
営業拠点	1	宇都宮
	2	長野
	3	上田
	4	甲府
	5	新潟
	6	前橋
	7	佐野
	8	水戸
	9	土浦



編集後記

今回の環境報告書は、2011年の発行から早いもので4回目を迎えることができました。その間、弊社の環境マネジメントシステムもISO14001の認証機関による更新審査を受審しながら活動のステップアップを目指してきました。今回の環境報告書では、その活動内容の質・量の面からもコンテンツとして厚みが増し、活動の成果に手ごたえを感じられるものとなりました。

1回目の発行年は、大震災による原発災害により電力不足が問題となり、その後も異常気象によるゲリラ豪雨や最近では記憶に新しい火山噴火などの自然災害が多発しております。全地球のCO₂問題が大きくなる中、環境の変化により真剣に向き合わなければなりません。今我々は、改めて何ができるのか、何をしなければならないのかを考え、企業活動の中だけではなく日常生活でもとどまることなく活動していくことが求められる段階になってきました。

そのような中で、エスアールエルでは本報告書を発行し、広く社会に環境保全活動への継続的参加を表明するとともに、お手にとって頂けた皆さまと更なる環境保全活動を推進していく所存です。本報告書により、皆さま方に弊社の取り組みが少しでもご理解いただけますよう祈念しております。

環境管理責任者 楠木 明仁

発 行 者：株式会社エスアールエル 総務部
本 社 住 所：〒163-0409 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号
発 行 年 月：2014年12月
ホ ー ム ペ ー ジ：<http://www.srl-group.co.jp/>
お 問 い 合 わ せ 先：TEL 03-6279-0900 (大代表) FAX 03-6279-0971



SIRIL 株式会社 エスアールエル
Communication for Health

